


【4-1】

湾・灘の区分	大阪湾
取組の名称	海底耕耘
事業期間	事業期間:平成 23 年度～ 継続中
事業体制	<p>【事業実施】</p> <p>大阪府漁業協同組合連合会</p> <p>【モニタリング実施(大阪府漁連からの研究業務委託)】</p> <p>(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター</p>
事業の背景・目的	複数の漁船が並行して耕耘機をひく「海底耕耘」により、漁業生産力を回復させるとともに、貝毒原因プランクトンの発生抑制効果を期待
事業場所の詳細	大阪海域の浅海域
事業内容	<p>海底耕耘機を用い耕耘作業を実施</p>  <p>海底耕耘作業</p>
モニタリング方法(効果・影響の確認方法)	<p>[調査項目]</p> <p>貝毒原因プランクトン密度、珪藻類密度、栄養塩濃度、水温、塩分、クロロフィル a 濃度、濁度、貝毒原因プランクトンシスト密度、珪藻休眠孢子密度(2020/2/25 まで実施)。</p> <p>3 月以降は参考定点のみの観測。シスト密度および珪藻休眠期細胞密度の調査は行わない。</p> <p>[調査時期・頻度] 2020/1/14～2020/2/25</p> <p>[調査場所] 海底耕耘を実施した海域内の調査点</p> <p>[調査地点数] 8 定点(+参考 3 定点)</p> <p>[モニタリング方法] (地独)大阪府立環境農林水産総合研究所調査船「おおさか」による観測</p>
取組による効果・影響の判断基準及びその結果等	<p>海域環境の改善・回復</p> <p>餌料生物及び魚介類の増産</p> <p>貝毒原因プランクトンの増殖抑制</p>
モニタリング結果の分析及び活用の方法	分析結果は次年度の海底耕耘実施の際に参考とする。
関係機関等における連携・情報共有の方法	モニタリング結果については、(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センターより水産課に情報提供。電子メールで速報として発信。細胞密度増加の場合は電話にて連絡。
今後の予定等	継続実施
取組事例についての発表資料等	瀬戸内海環境保全小委員会(第 16 回)資料
情報提供元	<p>大阪府環境農林水産部水産課</p> <p>(地独)大阪府立環境農林水産総合研究所水産技術センター</p>